

一羊会だより

発行／社会福祉法人一羊会
事務局／〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47
電話(0798)31-1760 FAX(0798)31-1763



一羊会ホームページが
リニューアルされました



一羊会ホームページ
へはこちらから



理事長・副理事長あいさつ



理事長
市原 博

この度、急逝いたしました前理事長・古川の遺志を継ぎ、後任として理事長に就任いたしました市原でございます。

まず初めに、今回理事長に就任した経緯を少しお話ししたいと思います。私は、一羊会に入職してまだ5～6年、副理事長という立場ではありましたが、今年は法人50周年という節目を迎え、グループホーム建設・人事制度改革、という新たな挑戦をする大事な時期に生え抜きでもない私が理事長になっていいものか悩みました。ただ、故人である前理事長とは、若いころから福祉の将来を語り合う仲間であり、故人が理事長になってから一羊会の将来について語り合う中で「利用者の皆さんのため、そして職員のため、持続可能な法人を目指すために改革していく。新たな地盤を築いて理事長の立場も次の世代に繋いでいく」とよく話していました。その思いを引き継いでいくため、今回理事長に就任いたしました。

ここからは、新たなグループホーム建設・人事制度改革についてお話ししたいと思います。

まず、グループホームについてですが、

分散していたホームを1か所に統合します。今までは賃貸物件を借り上げ、不便なところもありましたが、設計段階から職員が入り、利用者にとって安全、安心な環境で、より豊かな生活を提供します。拠点の集約により職員配置の最適化を図ることで、相互にフォローし合える効率的な体制を整え、職員の負担軽減を実現してまいります。

次に、人事制度改革ですが、こちらは職員が長く働き続けられるように待遇面を改善し、持続可能な体制のための組織改革を行います。スタートしたばかりでこれで決定したわけではなく、職員の意見を聞きながら一羊会に合った人事制度に変えていきます。職員の満足度を高めることにより、利用者にもより良いサービスを提供できると考えています。

最後に、私には前理事長のような知識、人脈、行動力もなく、代わりにはなれませんが、職員と力を合わせより良い法人を目指してまいります。

これからも、一羊会にご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



副理事長
中村 喜弘

2月12日の理事会において副理事長に選定されました中村です。まだ3ヶ月足らずですが、自身の力不足を痛感する毎日です。

私の一羊会との出会いは、1999年に実習生としてすずかけ作業所にお世話になったことがきっかけでした。超就職氷河期だった時代に、障害福祉分野の知識もない私を温かく迎えて下さったことを今でもはっきりと覚えています。つい先日ですが、実習生だった当時、実習初日に私の手を引いてすずかけ作業所を案内して下さいました利用者さんと久しぶりに会うことが出来ました。お互いに年齢を重ねてはいますが、変わらぬ笑顔と雰囲気、私が元気をもらいました。私は、一羊

会に入職して、これまで多くの利用者さんやご家族、共に働く職員、法人の垣根を超えてつながった方々に支えていただきながら今に至っているのだと思っています。

時代が変わり、社会情勢もめまぐるしく変化する現代において、一羊会も多くの課題と直面しています。昨年6月に理事長に就任されて以降、様々な改革に取り組み、志半ばで逝去されてしまった古川前理事長。その思いを受け継ぎ、様々な課題を解決していけるように取り組んで参ります。

皆さまにおかれましては、引き続きのご指導をよろしくお願い申し上げます。

2026年度

一羊会法人全体研修

4月11日に2026年度の一羊会法人全体研修が行われました。はじめに市原新理事長から挨拶があり、新しい役職に昇格した9名の辞令交付式が行われました。午前、昨年度に終了した第6次マスタープランについて振り返り、今年度から新たに策定された第7次マスタープラン（5か年計画）について理解を深めました。午後からは新しくなった人事制度についてそれぞれの部門を担当する部長から説明がありました。それを受けて行われたグループワークでは、会場に集まった職員が5名ほどのグループに分かれて新人事制度についてお互いの意見を交換し合う時間を持ちました。



権利擁護および虐待防止プロジェクト表彰式

昨年度、各事業所が力を入れてきた権利擁護および虐待防止の取り組みに対して、法人全職員が最も優れていると感じた事業所に投票しました。その結果が研修の最後に発表され、表彰式が行われました。今回金賞を受賞したのは、一羊園でした。銀賞をすすかけ作業所とすすかけ第2作業所、すすかけ労働センターが受賞し、その他6事業所が銅賞として表彰されました。



各事業所の取り組みを一部ご紹介

他法人で起きた虐待事例について意見交換を行い、他人事ではなく自分事として振り返る機会を設けた。

主任の机を現場近くのスタッフルームに設置し、支援上の相談がしやすい環境を作った。

ケース記録で使われる文言を題材にしてグループワークを実施。使用されていた「勝手に」や「作業をしていただく」といった表現を見直し、利用者が主体であるということを再確認した。

職員会議で「困りごと共有タイム」を設け、経験年数を問わず、支援での悩みや課題を共有した。

支援力や倫理観を高めるために年間約30名が外部研修を受講し、学んだことを自分の言葉で会議中に報告する機会を設けた。

『虐待は権利擁護の取り組みを進め続ける中で結果として防止するものである』これは今年2月に逝去した古川前理事長の言葉です。各事業所が力を入れて進めてきた取り組みを、表彰という形で労いたいという前理事長の思いが実現しました。

古川前理事長を偲んで



去る4月24日、古川前理事長のお別れの会が執り行われました。当日は二部制での開催となりましたが、両部合わせて約300名もの皆様にご参列いただきました。

祭壇に掲げられた、いつもと変わらぬ穏やかな微笑みを浮かべる遺影を前に、会場の至る所で、あまりにも早すぎる別れを惜しむ声が聞かれました。現場の最前線から法人の舵取りまで、一羊会の歩みとともにあった古川さんの突然の不在は、参列された利用者の皆様やご家族、職員にとって、深い喪失感と悲しみに満ちたものとなりました。



古川さんは昭和37年2月、長崎県五島市（旧三井楽町）に生まれ、兵庫教育大学を卒業後、一度は西宮市教育委員会に入職されました。しかし、昭和61年に退職して福祉の道を志し、平成元年4月に一羊会へと入職されました。以来、「すずかけ第2作業所」を皮切りに、「武庫川すずかけ作業所」や「ジョイント」の所長、法人本部副本部長などを歴任し、令和7年6月に理事長に就任されました。

法人の運営のみならず、兵庫県知的障害者施設協会の政策委員や社会福祉協議会の監事といった要職も数多く務められ、地域福祉の向上にその生涯を捧げられました。これほど多くの方々が集い、別れを惜しむ光景は、古川さんが築いてこられた功績の大きさと、そのお人柄がどれほど多くの支えとなっていたかを物語っていました。

古川さんが常に立ち返っていたのは、一羊会の基本理念にある「一羊会は誰のためにあるのか」という問いでした。理事長就任時の挨拶の中で、古川さんはこう語っています。

「『一羊会は誰のためにあるのか』をいつも考え、『しょうがい』のある人たちの願いやおもいを大切にします」「私は表に立つタイプではありません。常に『黒子』として支える立場を目指してきました」

この言葉通り、古川さんは常に利用者の皆様を真の主演として支える「黒子」に徹してきました。また、利用者が輝くためには、それを支える職員の支援力が不可欠であると説き、「弱者に寄り添うことこそが福祉の本質である」という強い信念を持って、法人の力を強固にすることに尽力されました。

生前、故人に賜りましたご厚誼に対し、改めて謹んで深謝申し上げます。私たちはこれからも「一羊会は誰のためにあるのか」を自らに問い続け、古川さんの遺志を継承してまいります。

今後とも、従前にならぬご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

追悼寄稿



部長
安田 文彦

一番呼び慣れた呼び方で記しますね。古川所長。まさか、こんなにも早くお別れの日が来るとは思いもよりませんでした。いつものように、またふらっと現れそうな気がしています。理事長に就任されてから一年もなかったのも、やりたいことがまだまだありますよね。所長はとにかく福祉に情熱的で研究熱心、利用者さんやご家族、職員のことを大切に考えて、ふれない芯をお持ちでした。新しい知識をどん欲に吸収する柔軟さ、戦略的な仕組みづくり、先見の明を兼ね備え、所長が始めたことは、今となっては法人のスタンダードです。

2003年、武庫川すずかけ作業所の所長だったあなたに採用してもらってから23年、私は古川所長に、そして一羊会に育てていただきました。駆け出しのころ、支援に行き詰まった私に、所長はさまざまな人と巡り合わせて、乗り越えさせてくれました。それは今なお私のゆるぎない自信・支えになっています。

所長が蒔いた種は、法人内外のたくさんの人の中に根付いています。それが芽吹き、花咲くのを見守っていて下さい。これまで、本当にありがとうございました。所長らしく、走り抜けましたね。どうぞ安らかにお休みください。ふらっと、会いに行きますね。



元一羊会職員
大元 裕司

古川さんの突然の訃報に接し、言葉にならない思いで今もお信じられない気持ちでいっぱいです。


私は1992年から13年間一羊会にお世話になり、古川さんとは7年ほど同じ作業所で仕事をさせて頂きました。出会いは、すずかけ第2作業所に新人として入職した時で、古川さんが30歳の時です。当時、無認可施設から認可施設へと移行した時期で、とにかく忙しい毎日でしたが、よく利用者さんの事や福祉について夜遅くまで語り合うというよりは議論していた日々が懐かしいです。右も左もわからない新人の私の話を、古川さんは真剣に耳を傾け聞いてくださり、意見をぶつける事のできる方でした。私にとって古川さんは、上司というより頼りになる良き先輩という存在で、本当にお世話になりました。

私が退職した後も、自身が営むパン屋に時々会いに来てくれては、「人材育成」「福祉の経営学」などについて話され、変わらない熱い思いに触れてきました。それだけに、あまりにも早い旅立ちに、もう一緒に話をする事が出来ないと思うと寂しいです。古川さんと語り合えた日々は、私にとってかけがえのない大切な思い出です。これまでの歩まれた道のりに深く感謝と敬意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



新所長紹介

すずかけ作業所 所長



しばた はなこ
柴田 華子

この度すずかけ作業所の所長を拝命いたしました柴田です。


すずかけ作業所に入職し、一羊園へ異動、そして再びすずかけ作業所へ異動し今年で13年目になります。

利用者の皆さんとの出会いで、自分には持ち合わせていなかった考えた方やものの見方があることに気づかせていただき、また先輩職員のご指導もありながら様々な支援を考え実施したり、たくさんの経験をさせていただきました。その経験を通して、【いろんな角度から物事を考えること】を大切にしてきました。

主任から所長へと立場は変わりましたが、利用者さんはどう思うか、職員だったらどう思うか等いろんな立場に立って物事を考えられる存在でいたいと思います。

歴代の所長と利用者・職員の皆さんで築き上げてきたすずかけ作業所を大切にしつつ、今いる利用者・職員の皆さんとしっかりコミュニケーションを取り、より良いすずかけ作業所にしていきたいと思います。よろしく願いいたします。

すずかけ第2作業所 所長



やまもと ひかる
山本 輝

前職は新車ディーラーの営業で、その後すずかけ作業所に入職し、屋外班・ミシン班を経て第2作業所に異動しました。通所事業所での支援を中心に経験を重ね、このたび第2作業所所長を拝命しました。

支援に絶対の正解はなく、だからこそ専門性に裏打ちされた提案や自身の工夫次第で成果が変わる創造的な仕事であり、提案が適切であれば上司の後押しも得られる自由度の高さに魅力を感じ、これまで働くことができました。今後は管理業務の比重が増す一方、これまで自身が先輩や上司から得ていたように職員の創意工夫が発揮される環境づくりに努め、何より利用者主体の支援を軸に運営へ貢献してまいります。そのために支援の専門性と資質の向上を自身も含め常に目指せる集団作りを目標に日々取り組みたいと思います。

※業務効率化の一環で、この文は私の独り言を文字起こししAIが要約したものです。こうしたツールもフル活用し職場環境をより良くしていきたいと思えます。

【新任職員紹介】 質問①趣味・特技・好きなこと ②仕事で楽しいと感じること、嬉しかったこと



あべ ことね
阿部 寿音

武庫川すずかけ作業所 軽作業班

- ①映画鑑賞、のんびり過ごすこと
- ②軽作業班の利用者さんだけでなく、直接的な関わりが少ない利用者さんからも話しかけてくださること。



たけはやし はな
竹林 花菜

上甲子園すずかけ作業所 菓子班

- ①野球観戦、ガチャガチャを回すこと
- ②利用者さんに分からないことを教えていただいたときに、菓子班の一員として受け入れていただけたように感じて嬉しかった。



たけした まなみ
竹下 愛珠

一羊園

- ①映画やドラマを観ること
- ②利用者さんが笑顔で楽しんで生活されている姿をみると楽しいと感じる。その方の好きな事を知ることができるのも嬉しい。

新副所長紹介

一羊園 副所長

こん ちゅね
権 春恵



4月1日付で一羊園の副所長を拝命いたしました。入職前は質屋で鑑定士として働き、福祉の知識もない状態からのスタートでしたが、2014年に派遣職員としてすずかけ第2作業所へ入職し、嘱託職員を経て正規職員となりました。

働く中で出産を経験し、シングルマザーとして子育てをしながら、短期間ではありますが父の看護にも携わりました。

若い頃とは違い、仕事と私生活の両立の難しさを実感するようになり、ライフステージの変化に寄り添える職場の大切さを強く感じています。こうした経験から、「どんな状況でも前向きに働き続けられる職場にしたい」「まずは職員自身が大切にされていると実感できる環境をつくりたい」という思いが生まれました。

歳を重ねたからこそ得られた気づきや経験を活かし、新たに任せていただいた副所長という役割を理解し、自分にできることを模索し続けてまいります。

今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

相談支援事業課こんぱす 副所長

やまぐち ゆか
山口 有香



このたびこんぱすの副所長を拝命し、その責任の重さに不安もありますが、相談業務、管理業務ともにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

私は大学時代に自閉症の子どもや知的障害のある方への行動療法を学びました。ただ、当時は「問題行動を減らすためにどのように関わるか」ばかりに目が向き、その人の生活や思いを全くわかっていませんでした。

2000年に西宮市手をつなぐ育成会に就職、その後事業譲渡に伴い一羊会の職員となり、多くの利用者とそのご家族との関わりの中で、本当に大事な一人ひとりの生活・人生について考えることが出来るようになったと思います。

私は一度家庭の事情で一羊会を離れましたが、一羊会が長く育んできた利用者、そのご家族との温かいつながりや雰囲気を感じ、もう一度丁寧に皆さんと関わりたいと戻ってきました。長く育まれてきた一羊会の良さを大切にしながら相談業務を通して貢献が出来ればと考えています。

【昨年度中途採用職員紹介】質問①趣味・特技・好きなこと ②仕事で楽しいと感じること、嬉しかったこと



くわばら ようすけ
桑原 洋介

カノン

- ①温泉旅行、スノーボード（昔は）
息子のラグビー観戦（私はできません）
- ②わたくし自身の家族と同じ年代のご利用者さんが多く、日々みなさんのご成長を支えていくことが楽しいと感じています。



まつもと まさあき
松本 正明

すずかけ第2作業所 4グループ

- ①串本に年に数回かせ釣り（大佑丸）
- ②レクのぶどう狩りで、利用者さんがぶどうの入った袋を持ち上げ満面の笑みを浮かべていてすごく嬉しかったです。みなさんが健康で楽しく過ごせる様に頑張っていきたいと思います。

2026年度一羊会事業計画

基本理念

「一羊会は誰のためにあるのか」をいつも考え、「しょうがい」のある人たちの願いやおもいを大切にします。

また、ひとりひとりがその人らしく社会の中で生きていくことができるための取り組みを進めます。

- 住み慣れた地域の中であたりまえに働き、活動し、いきいきと暮らせることをめざします。
- ひとりの人間として大切にされ、自分で決めることが尊重されるような支援をめざします。
- 地域の方と協力し、みんなが安心して暮らせる地域づくりをめざします。

2025年度は、法人の事業継続性の向上のため、新しい組織体制（新組織、新キャリアパス、新人事考課、新賃金制度）について検討し、結論に至りました。また第6次マスタープランの最終年として総括するとともに、第7次マスタープランの完成に至りました。

2026年度は、改革の成果を実施し検証していきます。また第7次マスタープランの1年目として、一羊会の原点に立ち戻り、利用者のニーズに向き合い、サービスの再構築に取り組んでいきます。

2025年度から取り組んできたグループホーム建設は2026年秋に完成予定です。利用者の生活基盤の安定を目指し、経営の安定を目指していきます。

法人創設50周年の節目となるので、これまでの取り組みの経緯をまとめ、自分たちのアイデンティティ・存在意義を再確認する機会とします。

1. 経営の強化

(1) 経営改善

各事業の収支改善と経営基盤の強化を最優先課題とし、計画を推進します。特に、福祉サービス費収入に対する人件費の適正化と業務効率化を図ります。

事業の再構築については、事業全体の見直しに着手し、収益性の低い事業については、ニーズを捉えつつ収支の改善を図るとともに、新規事業の可能性を積極的に模索します。再構築の具体策として、現在計画を進めているグループホーム建築は、2026年11月の事業開始を目指しており、確実に軌道に乗せることを目標とします。

また、DX推進を最重点課題の一つとし、職員の労務負担を軽減するとともに、人事の強化による経営力の向上を図り、組織全体の生産性を向上させます。

資金面では、民間銀行との連携を強化し、当座貸越など機動性の高い資金調達手段を確保・活用します。

(2) 経営力の向上

新人事制度を2026年より導入します。新人事制度で組織の再構築を行っており、部長を5つの機能別に分ける事で法人全体を横断的に支える仕組み、課長以下を上司から部下へと一本化された指揮命令系統で構成することで、早く的確に意思決定を行える強い組織を目指します。

(3) 危機管理

サービス管理責任者会議（リスクマネジメント分科会）において、各事業所の危機管理の状況把握と進捗管理、検証の年間計画を立てて行います。具体的には、法定の感染対策委員会、研修・訓練（感染症・BCP（感染症・災害）・避難（消火・避難・通報・避難確保）・応急手当・防犯）、非常時の備蓄などの実施状況の把握と検証、法人内に対して適切な時期に熱中症、安全運転などの注意喚起を行います。

2. 人材確保・定着

(1) 人材確保

法人HPやSNSを用いて、法人に興味を持ってもらえるよう発信を行います。

各事業所の状況を把握した上で採用計画を作成し、人員体制の充足に向けて、外国人材も含めた様々な手法を用いて採用活動に取り組みます。

インターンシップ、就職説明会、事業所見学を個別対応で行い、相互のマッチングを意識した採用活動を行います。

(2) 人材定着

新人事制度の導入により、兼務の解消と役割に基づいた業務に専念できる環境を整えることで、定着率を高められるよう取り組みます。

勤怠管理や記録管理ソフトの導入など、DX化を進め、職員の事務手続き上の負担軽減を目指します。

外国人材も取得可能な介護福祉士や社会福祉士の資格取得をサポートできる仕組みの導入を進めます。

3. 人材育成

(1) 専門性の向上

人材育成方針を見直し、権利擁護を基盤にした対人援助の姿勢・技術と、障害特性に応じた支援について、専門性を向上させることを目標とします。法人で規定している研修システムを運用し、ABA、TEACCHプログラム、心理検査について外部から専門家を招聘し、コンサルテーションを受けます。

また、法人内コンサルテーションを全事業所に対して実施します。人材育成部長を軸に、サービス管理責任者会議（サービス向上分科会）でその進捗管理と有効性の検証を行います。

(2) 資格取得の研修の受講推進

人事制度で受講を必須（強度行動障害者養成研修、行動援護従事者養成研修）とする研修は受講を計画的に進めます。

(3) 研修受講と成果の報告

研修システムに基づき、法定内外の研修を所属・職位によらず必要な内容を満遍なく受講できるようにします。また、外部研修情報を法人内で効率的に集約・共有できるよう、teamsのチャットを活用します。

それらの研修を活かした実践を法人内で報告する機会を設けます（全事業所、各1回以上）。その一部を対外的な実践報告会で報告します。

4. 利用者のニーズに応じたサービスの充実

法人設立50年を目の前にして、利用者像は大きく変わり、利用者が生きる社会も当時に比べると大きく変化しています。

年々利用者ニーズの広がりが大きくなるなかで、既存の制度にとらわれず、目の前の利用者を大事にして丁寧なアセスメントを行い、必要な支援を提供していきます。

(1) 就労継続支援B型の再構築

利用者が「働くこと」を通じて目標を達成する「自己実現」を第一に支援し、その過程で得られる達成感や喜びによって「自己肯定感」を高めることを目指します。工賃は、上記を追求した成果として位置づけ、結果として利用者の「社会的自立」へと繋がる質の高いサービスの提供を目指します。既存の作業に留まらず、新規での作業開拓を検討していきます。

(2) 生活介護の充実

利用者の高齢化と、それに伴う心身の変化（体力・認知機能の低下）が大きな課題となっています。その一方で、様々な障害特性から日常での困り感を抱えている利用者も多くいます。様々な状態の利用者が安心して、その人らしく日々生活を送れるよう、個々の特性と状態変化に合わせた「健康と機能維持」と「活動への参加の継続」を実現し、個別化された支援の提供を目指します。そのために、様々な専門職と連携や情報収集に努めます。

(3) 障害者支援施設における日中活動の展開

障害者支援施設では、ガーデニングやグループリハビリ、音楽療法やドックセラピーなどの活動機会を提供します。また、法人内事業所とも連携しながら、日中プログラムの充実に向けて取り組みます。

また、引き続き見守りセンサー等のIT化を検討し、利用者・職員とも安心して過ごせる環境を整えます。

利用者の生活基盤となる事業所については、法人全体で支援体制を整え支えていきます。

(4) 共同生活援助における質の高い支援の提供

グループホーム統合を契機として生活支援全般で既存の業務プロセスを見直し、間接業務の効率化を図り、直接支援の部分で個々のニーズに向き合い、質の高い支援の提供を目指します。

利用者の生活基盤となる事業所については、法人全体で支援体制を整え支えていきます。

(5) 障害児通所支援

放課後等デイサービスでは個別対応が増加傾向にあるため、ニーズにこたえることと体制とのバランスを考えて運営します。

保育所等訪問では従事できるスタッフの層を厚くするため、放課後等デイサービスとのバランスを考えてスタッフを育成します。

(6) 地域支援

居宅支援事業課が行っている事業（短期入所事業、日中一時支援事業、移動支援事業）の継続性や新規事業の可能性について、検討を進めます。

相談支援については、行政や基幹相談支援センターおよび他の相談支援事業所と連携をとり、本人中心を軸とした相談支援体制が整えられるように人材育成や地域連携にも取り組んでいきます。また、相談支援を通して見えてきた地域の状況について、法人内でも情報の発信を行います。

5. 利用者の権利擁護と意思決定支援の充実

サービス管理責任者会議（権利擁護分科会）を設置し、行動規範に基づく自己評価と検証、サービス等利用計

画・個別支援計画書作成プロセスへの当事者の参画方法について、職員間の共通理解の形成と具体的な手立てについて検証します。

6. 地域連携

ほっとかへんネットや自立支援協議会などの会議や取り組みに参加したり、地域に向けたイベントを企画したりすることで地域の一員として貢献します。

教育機関と連携して社会福祉士実習などの受け入れ、地域に向けた研修会やコンサルテーションの実施、実践報告会の開催、法定研修や関係機関への講師派遣などを通じて、地域に対する啓発と人材育成に貢献します（公益事業、障害児等療育支援事業）。

2026年度 法人単位資金収支予算

(自) 2026年4月1日

(至) 2027年3月31日

(単位：円)

Table with 5 columns: 勘定科目, 2026年度予算額, 2025年度予算額, 増減額, 備考. Rows include categories like 事業活動による収支, 施設整備等による収支, and その他の活動による収支.

法人・事業所御寄付の報告(敬称略・順不同) (2025年11月1日～2026年3月31日)

*法人

松枝千尋(2件) 三浦昇(3件) 村山俊宇
半羽利美佳 香櫨園コミュニティ協議会 8件

*一羊園

(一財)高友福祉積善会 一羊園家族会
近藤直哉 3件

*すずかけ作業所

(一財)高友福祉積善会 角松生史(2件) 3件

*すずかけ労働センター

すずかけ労働センター保護者会 1件

*武庫川すずかけ作業所

平野弘子 公益財団法人鳴尾会理事長前田哲司
匿名 3件

*ジョイント

匿名 匿名(金券) 2件

*上甲子園すずかけ作業所

上甲子園すずかけ作業所保護者会
山本加津美 榎木彩子 3件

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2025年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)
(2026年1月1日～2026年3月31日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部

熊谷税務会計事務所
(社福)光耀会
阪神園芸(株)(2口) 3件

*個人の部

岡克明 河合万貴子 北村伸一
小久保京子 中島忠男 中田智恵海
西田純子 三浦昇 8件

2026年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)
(2026年4月1日～2026年4月30日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部

甲山大師神呪寺
(一財)高友福祉積善会
社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所
すずかけ作業所保護者会(5口) 4件

*個人の部

高谷智子 田島栄文 中川寛子 3件

2025年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)
(2026年1月1日～2026年3月31日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部

日本基督教団関西学院教会
関西学院宗教活動委員会
関西学院中学部生徒一同
(学)神戸女学院 チャプレン室 4件

*個人の部

天野朗代 井上尚子 岩本健熙 大目修平
岡田まり子 岡克明 笠井喜世志 川越アキミ
北村伸一 小久保京子 堺孰 清水栄子
善塔勝一郎 万竝建二 三浦昇 宮崎隆行
横山潤・正代 17件

2026年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)
(2026年4月1日～2026年4月30日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部

社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所 1件

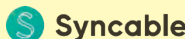
*個人の部

高谷智子 1件

■口座名義 一羊会後援会

■銀行 三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061

■郵便振替口座 01190-8-66322

■シンカブル(クレジットカード・銀行振込決済サイト) 



*受領証については、払込取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。

別途受領証が必要な場合はお知らせください。

*現金振込時の手数料について、振込手数料は後援会負担としておりますが、現金でお支払いの場合は別途110円の手数料がかかります。誠に恐縮ではございますが、何卒よろしく願いいたします。(ゆうちょ銀行の通帳やカードでのお支払い時には手数料はかかりません)



2026
あとリエすずかけ
T-shirt

mono tone

<p>宿坊宿舎 Shukufuku Shoko 「スイカ」 Tシャツの価格 ▶ インディゴ (S-L)・ロイヤルブルー (100-130)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「I hope peace」 Tシャツの価格 ▶ インディゴ</p>	<p>雷塚 Ikusaka Yukihiro 「雷撃」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (S-L)・ネイビーブルー (100-130)</p>	<p>尾崎 Masahiko 「野郎-A.M.A-」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>宿坊宿舎 Shukufuku Shoko 「回収出展」 Tシャツの価格 ▶ スズ</p>	<p>伊藤 久志 Hitotaka 「モモ屋ぐち」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「G-」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	
<p>丸屋 Maru Kazuichi 「シャワー」 Tシャツの価格 ▶ ライトブルー (110-120)・130A (S-L)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「コーヒー」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (S-L)・イエロー (100-130)</p>	<p>尾崎 Masahiko 「動感の2-A.M.A-」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>尾崎 Masahiko 「動感の2-A.M.A-」 Tシャツの価格 ▶ コス</p>	<p>尾崎 Masahiko 「動感の2-A.M.A-」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (100-130)</p>	<p>mono tone 「オオサマベシキ」 Tシャツの価格 ▶ スズ / 100 (120-130) (S-M)</p>		
<p>丸屋 Maru Kazuichi 「くろのぐーき」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (S-L)・イエロー (100-130)</p>	<p>伊藤 久志 Hitotaka 「くるまののって」 Tシャツの価格 ▶ イエロー (100-130)</p>	<p>▼プリントTシャツ価格について、 大人サイズ ▶ S、M、L ▶ 3300 (税込) ※税込額「送料」は、¥3500 (税込) 子供サイズ ▶ 100-130 ▶ 2750 (税込)</p>		<p>丸屋 Maru Kazuichi 「陣月」 Tシャツの価格 ▶ コス / KIDS (100-130) (S-M)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「家」 Tシャツの価格 ▶ スズ ※縦向きに展開</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「家」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	
<p>仁田 真知 Nitta Masaki 「こむら」 Tシャツの価格 ▶ インディゴ</p>	<p>仁田 真知 Nitta Masaki 「野郎カッパ」 Tシャツの価格 ▶ ライトブルー</p>	<p>仁田 真知 Nitta Masaki 「ミキサーとズボンと田」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (縦向き)・ホワイト (横向き)</p>	<p>伊藤 久志 Hitotaka 「はさみ」 Tシャツの価格 ▶ インディゴ</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「しかく・まる・さんかく」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>伊藤 久志 Hitotaka 「いるんなかたち」 Tシャツの価格 ▶ コス</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「高たつ」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>宿坊宿舎 Shukufuku Shoko 「メモ帳より」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>
<p>丸屋 Maru Kazuichi 「なんんー3人組」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト (縦向き)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「ああー3人組」 Tシャツの価格 ▶ ロイヤルブルー (100-130)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「ああー3人組」 Tシャツの価格 ▶ インディゴ (縦向きにプリント)</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「骨」 Tシャツの価格 ▶ ライトブルー</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「骨」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「骨」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「骨」 Tシャツの価格 ▶ スズ</p>	<p>丸屋 Maru Kazuichi 「骨」 Tシャツの価格 ▶ ホワイト</p>

2026あとリエすずかけ夏の雑貨展 7月2日(木)~6日(月) ※5日(日)はお休み